

# Hybrid Piano Piano Sound Unit HT-10 for KHP-100/300

取扱説明書

Owner's Manual  
Manuel d'utilisation  
Bedienungsanleitung

**KORG**



ピアノを活用  
消音ユニット

エコマーク認定番号  
第 11148001 号

JEFG2

## アフターサービス

### ■ 保証書

本製品の保証書は、後日送付されます。  
保証書には、取付完了報告書に基づき、所定事項が記入されていますので、「取付完了日」、「販売店」等の記入をご確認ください。記入がないものは無効となります。  
なお、保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

### ■ 保証期間

取付完了日より一年間です。

### ■ 保証期間中の修理

保証規定に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。  
本製品と共に保証書を提示の上、修理を依頼してください。

### ■ 保証期間経過後の修理

修理することによって性能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品(電子回路などのように機能維持のために必要な部品)の入手が困難な場合は、修理をお受けすることができませんのでご了承ください。また、外装部品(パネルなど)の修理、交換は、類似の代替品を使用する

こともありますので、あらかじめ(株)消音ピアノサービスへお問い合わせください。

### ■ 修理を依頼される前に

故障かな?とお思いになったら、まず取扱説明書をよくお読みのうえ、もう一度ご確認ください。

それでも異常があるときは、(株)消音ピアノサービスへお問い合わせください。

### ■ ご質問、ご相談について

アフターサービスや、商品のお取り扱いについて、およびピアノの長期使用につながる適正な使い方、使用後の製品の取り外し、回収、リサイクルに関するご質問、ご相談は、(株)消音ピアノサービスへお問い合わせください。

### WARNING!

この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です

This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

## サービス窓口

コルグ消音ピアノユニット 国内サービス代行店

### (株)消音ピアノサービス

フリーダイヤル ☎ 0120-614-104

受付時間:月曜～金曜日の10:00～17:00

但し、祝祭日及び毎月第1水曜日はお休みをいただいています。

●お客様相談窓口としての機能と取付認定店(取付認定技術者)様の難修理相談業務を行います。

## 株式会社コルグ

本社:〒206-0812 東京都稲城市矢野口 4015-2

© 2009 KORG INC.

---

<b>目次</b>	安全上のご注意 -----	4
	演奏するための準備 -----	5
	音色を選ぶ -----	7
	ペダルを使う -----	8
	いろいろな機能 -----	8
	故障とお思いになる前に -----	11
	鍵盤の各機能一覧 -----	12
	仕様 -----	13

---

<b>Contents</b>	Precautions -----	14
	Internal Setup and Connections -----	15
	Selecting a sound -----	17
	Using the pedals -----	18
	Using Other Functions -----	18
	Playing Back Demo Songs -----	20
	Troubleshooting -----	21
	Key Functions -----	22
	Specifications -----	23

---

<b>Sommaire</b>	Précautions -----	24
	Avant de commencer à jouer -----	25
	Sélection d'une sonorité -----	27
	Utilisation des pédales -----	28
	Autres fonctions -----	28
	Écoute des sons de démonstration ----	30
	Guide de dépannage -----	31
	Fonctions des touches -----	32
	Spécifications -----	33

---

<b>Inhalt</b>	Vorsichtsmaßnahmen -----	34
	Bevor Sie mit dem Spielen beginnen --	35
	Spielen unterschiedlicher Klänge -----	37
	Verwenden der Pedale -----	38
	Verwendung der übrigen Funktionen --	38
	Abspielen der Demo-Songs -----	40
	Störungssuche -----	41
	Tastenfunktionen -----	42
	Technische Daten -----	43




# 安全上のご注意

## ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

### 火災・感電・人身障害の危険を防止するには





#### 図記号の例

	△記号は、注意(危険、警告を含む)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⊘記号は、禁止(してはいけないこと)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	●記号は、強制(必ず行うこと)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を守ってください

## 警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、  
死亡や重傷を負う可能性が予想されます

-  ・ACアダプターの電源コードのプラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込む。
- ・ACアダプターの電源コードのプラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。  
感電やショート恐れがあります。
- ・本製品はコンセントの近くに設置し、電源コードのプラグへ容易に手が届くようにする。
-  ・次のような場合には、直ちに電源を切って電源コードのプラグをコンセントから抜く。
  - ACアダプター、電源コードやプラグが破損したとき
  - 異物が内部に入ったとき
  - 製品に異常や故障が生じたとき
 修理が必要なときは、(株)消音ピアノサービスへ依頼してください。
-  ・本製品を分解したり改造したりしない。
-  ・修理、部品の交換などで、取扱説明書に書かれている以外のことは絶対にしない。
- ・ACアダプターのコードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、ACアダプターのコードの上に重いものをのせない。  
コードが破損し、感電や火災の原因になります。

- ・大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。  
大音量で長時間使用すると、難聴になる可能性があります。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- ・本製品に異物(燃えやすいもの、硬貨、針金など)を入れない。
- ・温度が極端に高い場所(直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など)で使用や保管はしない。
- ・振動の多い場所で使用や保管はしない。
- ・ホコリの多い場所で使用や保管はしない。



風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。



雨天時の野外のように、湿気が多い場所や水滴のかかる場所で、使用や保管はしない。

・本製品に液体をこぼさない。





濡れた手で本製品を使用しない。

## 注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物理的損害が発生する可能性があります



- ・正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。
- ・ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。  
ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。本製品をテレビ等の横に設置すると、本製品の磁場によってテレビ等の故障の原因になることがあります。
- ・外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。
- ・電源コードをコンセントから抜き差しするときは、必ずプラグを持つ。
-  ・長時間使用しないときは、電源コードをコンセントから抜く。
-  ・付属のACアダプターや電源コードは他の電気機器で使用しない。  
付属のACアダプターや電源コードは本製品専用です。他の機器では使用できません。
- ・他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしない。  
本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
- ・スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。  
故障の原因になります。
- ・外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーは使用しない。
- ・不安定な場所に置かない。  
本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。
- ・本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。  
本製品が落下または損傷してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。

# 演奏するための準備

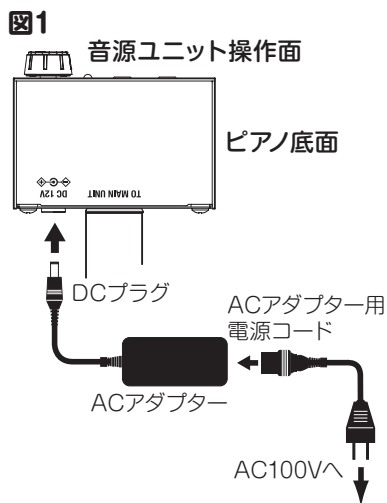
## 電源の接続

1. 本機の電源がオフになっていることを確認します。
2. 付属のACアダプターにACアダプター用電源コードを取付け、DCプラグを裏面のDC12V端子に接続します(図1)。

▲ ACアダプターは必ず付属のものをお使いください。他のACアダプターを使用した場合、故障などの原因となります。

3. コンセントにACアダプター用電源コードを接続します。

▲ 電源は必ずAC100Vを使用してください。



## 電源をオンにする

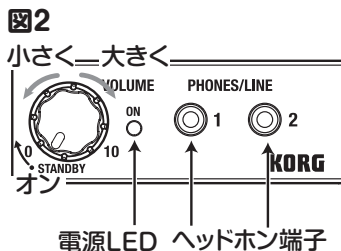
[VOLUME] ツマミを右に回してオンにします。

電源LEDが点灯します(図2)。

オフにするときは、[VOLUME] ツマミを“STANDBY”の位置まで左に回してください。

電源LEDが消灯します。

オン、オフの切り替え時には「カチッ」と音がします。



## オート・パワー・オフ機能

30分以上鍵盤を弾かない場合や、鍵盤を使った機能の設定操作をしない場合は、自動的に本機の電源がオフになります。この機能を無効にすることはできません。

▲ この機能によって[VOLUME]ツマミがオンの位置でも自動的に電源がオフになります。再度電源をオンにするときは、[VOLUME]ツマミを回して“STANDBY”の位置まで左に回し切って一度電源をオフにしてから、再び[VOLUME]ツマミを回して電源をオンにしてください。

## 音量を調整する

[VOLUME]ツマミを回して音量を調整します(図2)。

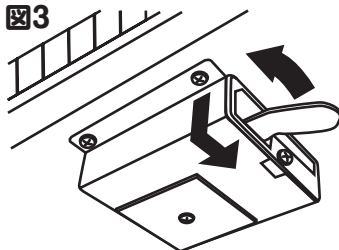
ヘッドホン端子から出力される音量をコントロールします。

音量を小さくするときは左側へ、大きくするときは右側へツマミを回します。

## アコースティック・ピアノの音を消すときは

図3のようにピアノ底面の消音ユニットのレバーを手前  
図3  
に引き、下げてロックします。

レバーを元に戻すと、通常のアコースティック・ピアノの演奏ができます。



▲ 消音していても和音を強く弾いた場合は、アコースティック・ピアノの音が漏れることがあります。

▲ 演奏中にこのレバーを操作しないでください。

## ヘッドホンを使うときは

音源ユニットの前面にあるヘッドホン端子に、ステレオ・ヘッドホンのプラグ(ミニ・プラグ)を差し込みます(図2)。

ヘッドホン端子は2つありますので、2人で演奏を楽しむことができます。

▲ ヘッドホンを使用する際は、耳の保護のために大きな音量で長い時間聴かないでください。

## オーディオ機器と接続するときは

本機のヘッドホン端子(PHONES/LINE)は、オーディオ機器やアンプ付スピーカーを接続する、ライン・アウト端子として使用できます。接続する機器に合わせて、市販の接続コードを使って接続してください。

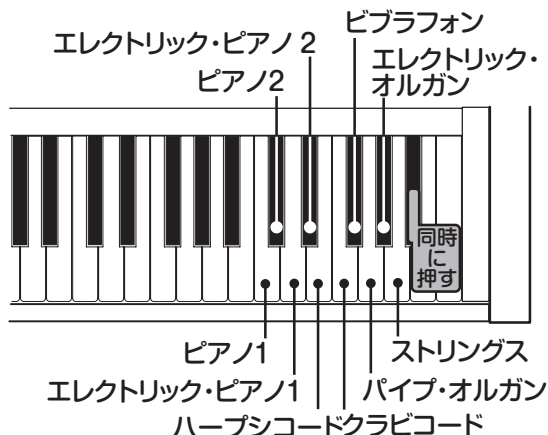
▲ 接続するときは、本機や接続する機器の電源をオフにした状態で行ってください。電源をオンにしたまま接続すると、本機や接続した機器等を破損したり、誤動作の原因となる場合があります。

# 音色を選ぶ

音色は10種類内蔵しています。

鍵盤の右端のA $\sharp$ 7、B7、C8を同時に押しながら、C7からA7のいずれかの鍵盤を押してください。押した鍵盤によって下記の音色にかわります。

電源をオンにしたときは、初期設定の音色(Piano 1)が選ばれます。



## 音色リスト

ピアノ1(C7)	深みと艶があり、華やかに響くグランド・ピアノの音
ピアノ2(C $\sharp$ 7)	クリアで明るい感じのグランド・ピアノの音
エレクトリック・ピアノ1(D7)	軽やかで透明感のあるエレクトリック・ピアノの音
エレクトリック・ピアノ2(D $\sharp$ 7)	アタック感があって切れのよいエレクトリック・ピアノの音
ハーブシコード(E7)	クラシックな趣のある繊細なハーブシコードの音
クラビコード(F7)	独特な響きと表現力のある電子クラビコードの音
ビブラフォン(F $\sharp$ 7)	まろやかなビブラフォンの音
パイプ・オルガン(G7)	荘厳なパイプ・オルガンの音
エレクトリック・オルガン(G $\sharp$ 7)	ファンキーなエレクトリック・オルガンの音
ストリングス(A7)	バイオリンなどの弦楽器によるストリングス・アンサンブルの音

## ペダルを使う

本機の音色にダンパー、ソフトの2種類のペダルを使うことができます。アコースティック・ピアノ本体のペダルを使って、演奏をより効果的に表現することができます。

### ダンパー・ペダル

ペダルを踏んでいる間は音が長く伸び、余韻のある豊かな響きになります。ペダルを踏み込む深さでダンパーのかかり具合を変化させることができます(ハーフ・ペダル効果)。


### ソフト・ペダル

ペダルを踏んでいる間は、音が柔らかくおとなしい感じになります。ペダルを踏み込む深さで音のやわらかさを変化させることができます(ハーフ・ペダル効果)。

 ハーフ・ペダル効果はピアノ1、2に対応します。

## いろいろな機能

本機には音色をかえたり、ペダルを使うこと以外でも、鍵盤の右端のA $\sharp$ 7、B7、C8を同時に押しながら、機能が割り当てられた鍵盤を押すと各設定ができます。

 A $\sharp$ 7、B7、C8を同時に押ししているときは演奏しないでください。予期せぬ設定になることがあります。

### 機能確認音について

鍵盤の右端のA $\sharp$ 7、B7、C8を同時に押したときに、各種設定が可能になったことを知らせたり、各種設定の鍵盤を押して設定完了を知らせる確認音が出ます。

この確認音はオフにすることができます。鍵盤の右端のA $\sharp$ 7、B7、C8を同時に押しながら、A $\natural$ 0を押すとオフに、B0を押すとオンになります。

電源をオンにしたとき(初期設定)は確認音が出る設定になります。

## エフェクト(リバーブとコーラス)

音色に残響と深みを加えるリバーブ・エフェクトや、音色に広がりを加えるコーラス・エフェクトを使用することができます。

- リバーブ・エフェクトは、鍵盤の右端のA $\sharp$ 7、B7、C8を同時に押しながら、A5を押すとオンに、G $\sharp$ 5を押すとオフになります。
- コーラス・エフェクトは、鍵盤の右端のA $\sharp$ 7、B7、C8を同時に押しながら、B5を押すとオンに、A $\sharp$ 5を押すとオフになります。

エフェクトは各音色に設定できます。

電源をオンにしたとき(初期設定)は、各音色での最適な設定になります。



## トランスポーズ機能(移調)

黒鍵を多く押さえるような弾きにくい曲や、他の楽器や歌に演奏とキー(調)が合わせられないときなどがあります。このときキーを変える(移調する)ことによって、黒鍵をあまり使わない指使いで演奏したり、覚えたそのままの指使いで、他の楽器や歌に演奏を合わせることができます。これをトランスポーズ機能といいます。11半音の範囲ですらすることができます。

- 鍵盤の右端のA<sup>#</sup>7、B7、C8を同時に押しながら、F<sup>#</sup>2からB3、C<sup>#</sup>3からF3のいずれかの鍵盤を押すと、キーに合わせてトランスポーズします。

弾いた鍵盤より低い音、たとえば、C3の位置でA2(-3半音)の高さの音を出すには、鍵盤の右端のA<sup>#</sup>7、B7、C8を同時に押しながらA2を押します。

弾いた鍵盤より高い音、たとえば、C3の位置でD<sup>#</sup>3(+3半音)の高さの音を出すには、鍵盤の右端のA<sup>#</sup>7、B7、C8を同時に押しながらD<sup>#</sup>3を押します。

鍵盤の右端のA<sup>#</sup>7、B7、C8を同時に押しながら、C3を押すとトランスポーズなし(±0)の設定になります。

電源をオンにしたとき(初期設定)はトランスポーズなしです。

## ピッチ・コントロール機能(チューニング)

ピッチ(音の高さ)の微調整を行ないます。他の楽器と合奏をするときなどに、楽器間の微妙なピッチのずれを調整します。

E5、F5の鍵盤でピッチを427.5から452.5Hz(ヘルツ)で0.5Hzごとに設定します。

- 鍵盤の右端のA<sup>#</sup>7、B7、C8を同時に押しながら、E5を押すたびに0.5Hzピッチが下がり、F5を押すたびに0.5Hzピッチが上がります。
- 鍵盤の右端のA<sup>#</sup>7、B7、C8を同時に押しながら、E5とF5を同時に押すと440Hzに戻ります。

電源をオンにしたとき(初期設定)は440Hz(A4)です。ただし、本機の取付時にチューニングの初期設定を変更した場合は、取付認定技術者が設定した値(441、442、443、444、445Hzのいずれか)になります。

## デモ曲を聴く

本機には10種類の音色を使った音色デモが10曲入っています。

デモ曲を聴いて、豊かな音色とその表現力を確認してください。

鍵盤の右端のA<sup>#</sup>7、B7、C8を同時に押しながら、C6からA6のいずれかの鍵盤を押してください。押した鍵盤によって下記のデモ曲の演奏が始まります。

演奏は選んだ曲から順番に止めるまでくり返し演奏します。

演奏を止めるときはA<sup>#</sup>7、B7、C8を同時に押してください。

### デモ曲リスト

1. Piano 1デモ(C6)	: 幻想即興曲 Op.66/F.ショパン
2. Piano 2デモ(C <sup>#</sup> 6)	: アメイジング・グレイス/不詳(編曲N.Nishi)
3. E. Piano 1デモ(D6)	: Ramble/M.Sakaguchi
4. E. Piano 2デモ(D <sup>#</sup> 6)	: コルグ・オリジナル
5. Harpsiデモ(E6)	: インヴェンション第8番/J.S.バッハ
6. Clavデモ(F6)	: コルグ・オリジナル
7. Vibraphoneデモ(F <sup>#</sup> 6)	: コルグ・オリジナル
8. P. Organデモ(G6)	: トッカータ 二短調/J.S.バッハ
9. E. Organデモ(G <sup>#</sup> 6)	: コルグ・オリジナル
10. Stringsデモ(A6)	: First Snow/M.Sakaguchi

# 故障とお思いになる前に

## 電源が入らない

- ACアダプターのDCプラグを本体のDC12Vに差し込んでいますか？
- ACアダプターの電源コードを適切なコンセントに差し込んでいますか？
- 電源がオンになっていますか？
- それでも電源が入らない場合は、ACアダプターの電源コードをコンセントから抜いて、修理を依頼してください。

## 音が出ない

- 本機の[VOLUME]ツマミを左側に回しきって(“STANDBY”の手前)いませんか？

## 音が途切れてしまう

- 本機の音色は、元になる楽器の音をサンプリング(録音)し、分析/加工してつくられています。音色によって1つの鍵盤を押すと、サンプリング・データの1つを鳴らす音色と、2つを鳴らす音色があります。本機では、ほとんどの音色で2つのデータを鳴らします。この場合、ダンパー・ペダルを踏んでいるときも含め、同時に発音できる音数は60音となります。ただし、ピアノ2音色は、最大同時発音数は120音となります。

## 特定の音域でピアノ音色の音程、音質がおかしい

- 本機のピアノ音色では、ピアノ本体の音をできる限り忠実に再現しようと加工してつくられています。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音程や音域が異質に感じる場合がありますが、製品の不良ではありません。

## 特定の鍵盤で音が出ない、大きい、小さい

- キャリブレーションがずれている可能性があります。取付認定技術者、または購入した販売店へお問い合わせください。
- 消音ユニットは、取付認定技術者によるアコースティック・ピアノの定期的な調律、整調を行わないと、本来の性能が発揮できずに上記のような症状が発生する場合があります。1年に1度の目安で調律、整調を行うことをお勧めします。

## ペダルの効きが弱すぎる、強すぎる

- キャリブレーションがずれている可能性があります。取付認定技術者、または購入した販売店へお問い合わせください。
- 消音ユニットは、取付認定技術者によるアコースティック・ピアノの定期的な調律、整調を行わないと、本来の性能が発揮できず上記のような症状が発生する場合があります。1年に1度の目安で調律、整調を行うことをお勧めします。

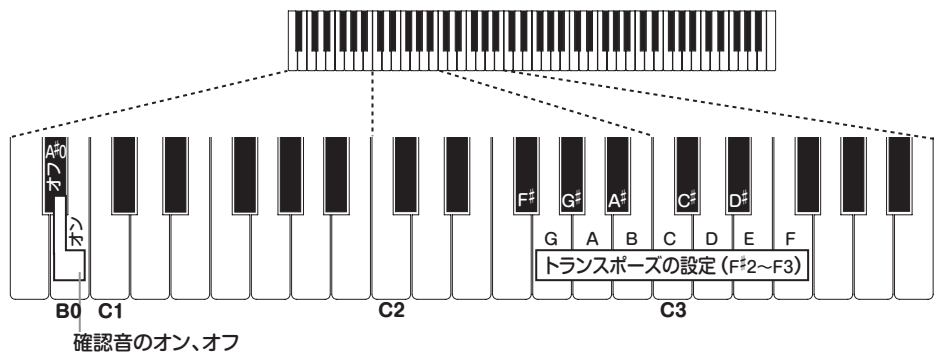
## アコースティック・ピアノと音程が違う

- 消音ユニットは、取付認定技術者によるアコースティック・ピアノの定期的な調律、整調を行わないと、本来の性能が発揮できず上記のような症状が発生する場合があります。1年に1度の目安で調律、整調を行うことをお勧めします。

## 通常のアコースティック・ピアノの演奏ができない

- 故障等で消音バーが動かなくなってしまった場合、取付認定技術者、または購入した販売店へお問い合わせください。

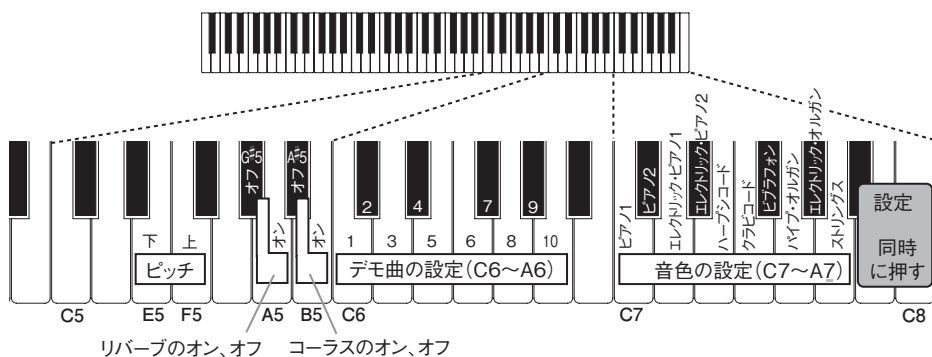
# 鍵盤の各機能一覧



# 仕様

音色	10音色: ピアノ1、ピアノ2、エレクトリック・ピアノ1、エレクトリック・ピアノ2、ハーブシコード、クラビコード、ビブラフォン、パイプ・オルガン、エレクトリック・オルガン、ストリングス
音源	ステレオ・サンプリング音源
最大同時発音数	120音
エフェクト	リバーブ、コーラス
ペダル	ダンパー、ソフト(ハーフ・ペダル対応)
接続端子	ヘッドホン×2(出力端子兼用)
電源	DC12V  (付属ACアダプター)
外形寸法	105(W)×62(D)×31(H)mm
質量	130g(音源ユニットのみ)
付属品	ACアダプター、ヘッドホン

※ 仕様および外装は改良のため予告なく変更することがあります。



## Precautions

### Location

Using the unit in the following locations can result in a malfunction.

- In direct sunlight
- Locations of extreme temperature or humidity
- Excessively dusty or dirty locations
- Locations of excessive vibration
- Close to magnetic fields

### Power supply

Please connect the designated AC adapter to an AC outlet of the correct voltage. Do not connect it to an AC outlet of voltage other than that for which your unit is intended.

### Interference with other electrical devices

Radios and televisions placed nearby may experience reception interference. Operate this unit at a suitable distance from radios and televisions.

### Handling

To avoid breakage, do not apply excessive force to the switches or controls.

### Care

If the exterior becomes dirty, wipe it with a clean, dry cloth. Do not use liquid cleaners such as benzene or thinner, or cleaning compounds or flammable polishes.

### Keep this manual

After reading this manual, please keep it for later reference.

### Keeping foreign matter out of your equipment

Never set any container with liquid in it near this equipment. If liquid gets into the equipment, it could cause a breakdown, fire, or electrical shock. Be careful not to let metal objects get into the equipment. If something does slip into the equipment, unplug the AC adapter from the wall outlet. Then contact your dealer or qualified installation technician for assistance.

- \* All product names and company names are the trademarks or registered trademarks of their respective owners.

### THE FCC REGULATION WARNING (for USA)

NOTE: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

If items such as cables are included with this equipment, you must use those included items. Unauthorized changes or modification to this system can void the user's authority to operate this equipment.

### Notice regarding disposal (EU only)



When this "crossed-out wheeled bin" symbol is displayed on the product, owner's manual, battery, or battery package, it signifies that when you wish to dispose of this product, manual, package or battery you must do so in an approved manner. Do not discard this product, manual, package or battery along with ordinary household waste. Disposing in the correct manner will prevent harm to human health and potential damage to the environment. Since the correct method of disposal will depend on the applicable laws and regulations in your locality, please contact your local administrative body for details. If the battery contains heavy metals in excess of the regulated amount, a chemical symbol is displayed below the "crossed-out wheeled bin" symbol on the battery or battery package.

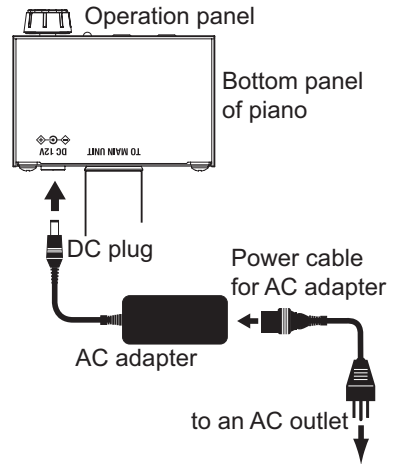
# Internal Setup and Connections

## Connecting the Power (Figure 1)

Start with the HT-10 turned OFF. Connect the supplied AC adapter to the power cord. Insert the DC plug end into the DC12V jack on the rear panel. Next, plug the power cord into an AC outlet.

- ⚠ Be sure to use the supplied AC adapter. Using other AC adapters may cause the unit to malfunction.
- ⚠ Be sure to plug the unit into an AC outlet of an appropriate voltage.

Figure 1



## Turning the HT-10 ON

Rotate the VOLUME knob toward the right to turn on the power. (Figure 2)  
The power LED will light up.

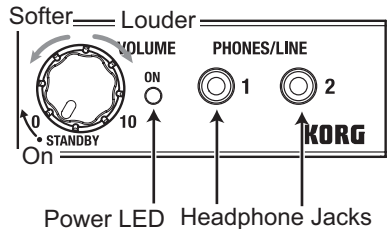
To turn the power off, turn the VOLUME knob toward the left until it reaches the "STANDBY" position. The power LED will go dark.  
There will be a "click" when you turn the power on or off.

## Auto power off function

This feature automatically turns off the HT-10 when 30 minutes have passed without a key pressed in the keyboard or without a function setting specified using the keyboard.

- ⚠ When this function is enabled, the HT-10 will be automatically turned off, even if the [VOLUME] knob had been used to turn it on. To turn on the HT-10, first turn it off by fully turning the [VOLUME] knob counterclockwise to the "STANDBY" position, and then turn the [VOLUME] knob to turn it on again.

Figure 2



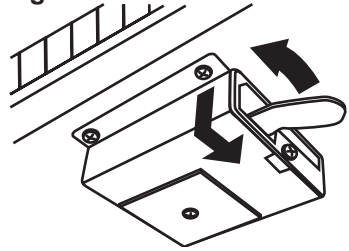
## Adjusting the volume

Rotate the VOLUME knob to adjust the volume. (Figure 2)  
The VOLUME knob controls the output level of the headphone jacks.

## Silencing the acoustic piano sound

As shown in figure 3, pull the lever of the mute unit located on the bottom panel of the piano toward yourself, and lower the lever to lock it into place. To go back to playing the acoustic piano conventionally, return the lever to its original position.

Figure 3



⚠ Even if the piano is silenced, there may be some leakage of the acoustic piano sound if you play a chord strongly.

⚠ Don't operate this lever while you're playing.

## Using headphones

The HT-10 features two headphone jacks, so that two people can enjoy playing and listening.

Connect a pair of stereo headphones by inserting a stereo headphone mini plug into one of the headphone jacks on the front of the sound unit. (Figure 2)

⚠ To protect your hearing, do not listen to loud, high-volume sounds for a long period of time through headphones.

## Connecting audio components

You can use the PHONES/LINE jacks as line-out jacks to connect powered speakers or audio components to the keyboard. For these connections, use commercially available cables that are appropriate for the components that you're using.

⚠ Before connecting audio components, make sure that you turn off the power to the unit and the audio components. Otherwise, damage or malfunction to the unit or components may occur.

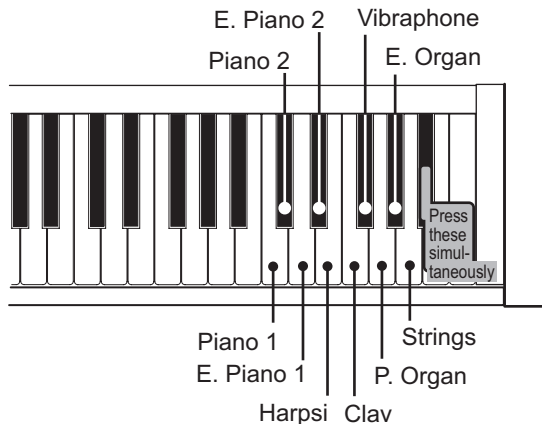


# Selecting a sound

The HT-10 features 10 preset sounds.

While simultaneously pressing and holding down the A<sup>#</sup>7, B7, and C8 keys (on the right side of the keyboard), press one of the keys ranging from C7 to A7. The preset sound assigned to the key that you pressed will be selected.

Whenever you turn on the power to the unit, the default preset sound (Piano 1) will be recalled.



## List of Sounds

Piano 1 (C7)	: Elegant and warm grand piano
Piano 2 (C <sup>#</sup> 7)	: Clear and bright grand piano
E. Piano 1 (D7)	: Smooth, authentic electric piano
E. Piano 2 (D <sup>#</sup> 7)	: Modern, percussive electric piano
Harpsi (E7)	: Classical harpsichord
Clav (F7)	: Expressive electric clavichord
Vibraphone (F <sup>#</sup> 7)	: Smooth vibraphone
P. Organ (G7)	: Pipe organ
E. Organ (G <sup>#</sup> 7)	: Drawbar electronic organ
Strings (A7)	: Ensemble string section

## Using the pedals

Damper pedals and Soft pedals can be used with the HT-10's sounds. You can use the pedals of the acoustic piano to make your performance more expressive.

### Damper pedal

The notes will be sustained while you hold down the pedal, creating a rich resonance. The amount of damper that is applied (half-pedal effect) is controlled by how far down the pedal is pressed.


### Soft pedal

The sound will be softer and milder while you hold down the pedal. The amount of soft-pedal that is applied (half-pedal effect) is controlled by how far down the pedal is pressed.

 A half-pedal effect can be applied to Piano 1 or 2.

## Using Other Functions

In addition to selecting a preset sound or demo song, the HT-10 enables you to use various functions by pressing and holding down the A<sup>#</sup>7, B7, and C8 keys and pressing a key to where the corresponding function has been assigned.

 While pressing and holding down the A<sup>#</sup>7, B7, and C8 keys, do not play the keyboard. Otherwise, an unexpected result may occur.

### About the confirmation sound

When you press and hold down the A<sup>#</sup>7, B7, and C8 keys simultaneously on the right side of the keyboard, or when you press a key where a function has been assigned, you will hear the confirmation sound. You can turn this sound off, as described below. While simultaneously pressing and holding down the A<sup>#</sup>7, B7, and C8 keys, press the A<sup>#</sup>0 to turn off the confirmation sound. To turn on the confirmation sound, repeat the previous procedure but press the B0 instead of A<sup>#</sup>0.

The default setting (when you turn on the unit) is "Confirmation sound On."

### Effects (Reverb and Chorus)

You can use a reverb effect to add reverberation and depth to the sound, and a chorus effect to add width and space.

- While simultaneously pressing and holding down the A<sup>#</sup>7, B7, and C8 keys, press the A5 key to turn on the reverb effect. To turn off the reverb effect, repeat the previous procedure but press the C<sup>#</sup>5 key instead of A5.
- While simultaneously pressing and holding down the A<sup>#</sup>7, B7, and C8 keys, press the B5 key to turn on the chorus effect. To turn off the chorus effect, repeat the previous procedure but press the A<sup>#</sup>5 key instead of B5.

You can apply effects to each preset sound. When you turn on the power to the unit, the effects will use the optimum settings for each preset sound.

## Transpose function (Shifting the key)

In some cases, a song may be written in a difficult key (e.g., using many black keys), or you may wish to shift the key to match another instrument or vocalist. In such cases, you can transpose (shift the key) to use an easier fingering (without playing too many black keys), or to use the same familiar fingering to play in a different key. This is called the Transpose function. You can shift the key in a range of eleven semitones.

For example if you transpose upward by one semitone, playing the notes shown in the upper score to the left will produce the pitches shown in the lower score.

- To transpose the key, press and hold down the A#7, B7, and C8 keys, and press a key from F#2 to B3 or from C#3 to F3. The name of the key that you pressed will become the transposed key. For example, if you wish to use the C3 key to play note A2 (lower by three semitones), press and hold down the A#7, B7, and C8 keys, and press the A2 key. If you wish to use the C3 key to play note D#3 (higher by three semitones), press and hold down the A#7, B7, and C8 keys, and press the D#3 key.

To reset the Transpose function to “No Transposition (+/-0),” press and hold down the A#7, B7, and C8 keys, and press the C3 key.

The default setting (when you turn on the unit) is “No Transposition.”

## Pitch Control function (Tuning)

Here’s how to make fine adjustments to the pitch.

When you’re playing together with other instruments, you can use this method to fix any slight differences in pitch between instruments.

You can adjust the tuning of the HT-10 in half-step (0.5) Hz intervals over a range of 427.5–452.5 Hz (Hertz) by using the E5 and F5 keys.

- While pressing and holding down the A#7, B7, and C8 keys (on the right side of the keyboard), press the E5 key repeatedly to lower the pitch in 0.5Hz steps, or the F5 key repeatedly to raise the pitch in 0.5Hz steps.
- To reset the pitch to 440Hz, press and hold down the A#7, B7, and C8 keys, and press the E5 and F5 keys simultaneously.

The default setting (when you turn on the unit) is “440Hz (A4),” unless a certified service technician has changed the default setting to 441, 442, 443, 444, or 445Hz during installation.

# Playing Back Demo Songs

The HT-10 features 10 preset sounds.

While simultaneously pressing and holding down the A#7, B7, and C8 keys (on the right side of the keyboard), press one of the keys ranging from C6 to A6. The preset sound assigned to the key that you pressed will be selected.

Whenever you turn on the power to the unit, the default preset sound (Piano 1) will be recalled.

## List of Demo Songs

1. Piano 1 demo (C6)	: Fantaisie-Impromptu Op.66/F.Chopin
2. Piano 2 demo (C#6)	: Amazing Grace/unknown (arr. : N.Nishi)
3. E. Piano 1 demo (D6)	: Ramble/M.Sakaguchi
4. E. Piano 2 demo (D#6)	: KORGE Original
5. Harpsi demo (E6)	: Invention No.8/J.S.Bach
6. Clav demo (F6)	: KORGE Original
7. Vibraphone demo (F#6)	: KORGE Original
8. P. Organ demo (G6)	: Toccata in D moll/J.S.Bach
9. E. Organ demo (G#6)	: KORGE Original
10. Strings demo (A6)	: First Snow/M.Sakaguchi

# Troubleshooting

## Power won't turn on

- Is the DC plug of the AC adapter connected to the HT-10's DC12V connector?
- Is the power cable of the AC adapter connected to an AC outlet of the correct voltage?
- Is the power turned on?
- If the power still does not turn on, disconnect the AC adapter power cable from the AC outlet, and contact a service center.

## No sound

- Could the HT-10's VOLUME knob be turned all the way to the left (before the "STANDBY" position)?

## Sound is interrupted

- The preset sounds of the HT-10 have been created by sampling (recording) the sounds of actual instruments, then analyzing and processing the samples. When you press a key, some sounds play a single piece of sampled data, while other sounds play two pieces of sampled data. The HT-10 uses two pieces of data for most of its preset sounds. When one of these two-sample sounds is selected (regardless of whether the damper pedal is being pressed), the maximum polyphony is 60 notes. However, with two Piano sounds, the maximum polyphony is 120 notes. If the maximum polyphony is exceeded, some of the notes will be lost.

## The pitch or tone of the piano sounds wrong in some key regions

- The HT-10's piano sounds replicate the sound of an actual piano as faithfully as possible. This means that in some regions of the keyboard, you may feel that the overtones seem stronger, or that the tone or pitch seems wrong. This is not a malfunction.

## A specific key does not sound, or is too loud or soft

- The key may not be accurately calibrated. Please contact a certified service technician or your local Korg dealer.
- The mute unit may cause the problem listed above if it is not regularly maintained and adjusted by a certified service technician. We recommend that you have your piano tuned and adjusted once a year.

## The pedal action is insufficient or too strong

- The key may not be accurately calibrated. Please contact a certified service technician or your dealer.
- The mute unit may cause the problem listed above if it is not regularly maintained and adjusted by a certified service technician. We recommend that you have your piano tuned and adjusted once a year.

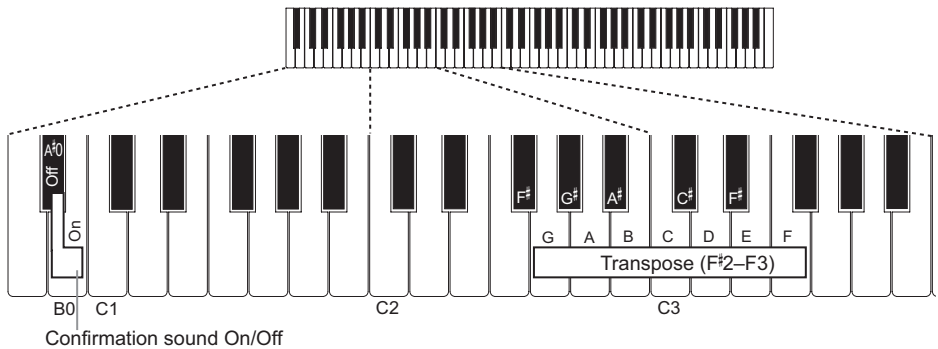
## The pitch is different than the acoustic piano

- The mute unit may cause the problem listed above if it is not regularly maintained and adjusted by a certified service technician. We recommend that you have your piano tuned and adjusted once a year.



## The keyboard does not produce sound when played as a piano

- If the mute unit lever does not move, contact a certified service technician or your dealer.

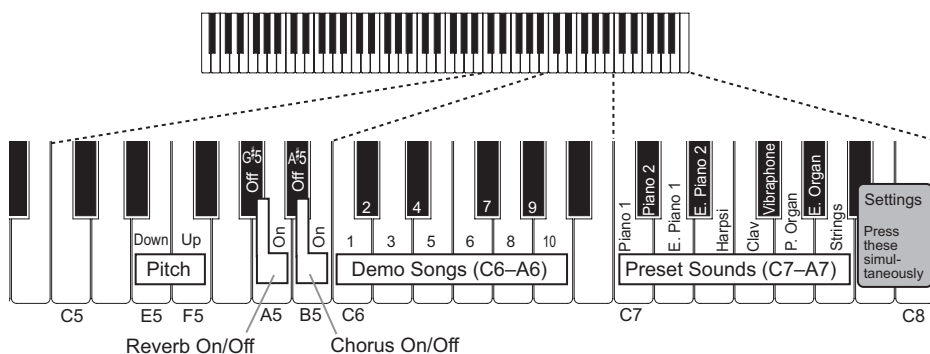
# Key Functions



# Specifications

<b>Sounds</b>	Ten sounds: Piano 1, Piano 2, Electric Piano 1, Electric Piano 2, Harpsichord, Clavichord, Vibraphone, Pipe Organ, Electric Organ, Strings
<b>Sound generator</b>	Stereo Sampling sound generator
<b>Maximum polyphony</b>	120 notes/60 notes (Stereo)
<b>Effect</b>	Reverb, Chorus
<b>Pedals</b>	Half-pedaling supported: Damper, soft
<b>Jacks</b>	Headphones x 2 (also function as outputs)
<b>Power supply</b>	DC12V   (Included AC adapter)
<b>Dimensions</b>	105 (W) × 62 (D) × 31 (H) mm / 4.1" (W) x 2.4" (D) x 1.2" (H)
<b>Weight</b>	130g / 4.59oz. (Sound unit only)
<b>Included items</b>	AC adapter, headphone

\* Specifications and appearance are subject to change without notice for improvement.



# Précautions

## Emplacement

L'utilisation de cet instrument dans les endroits suivants peut entraîner le mauvais fonctionnement.

- En plein soleil
- Endroits très chauds ou très humides
- Endroits sales ou fort poussiéreux
- Endroits soumis à de fortes vibrations
- A proximité de champs magnétiques

## Alimentation

Branchez l'adaptateur secteur mentionné à une prise secteur de tension appropriée. Evitez de brancher l'adaptateur à une prise de courant dont la tension ne correspond pas à celle pour laquelle l'appareil est conçu.

## Interférences avec d'autres appareils électriques

Les postes de radio et de télévision situés à proximité peuvent par conséquent souffrir d'interférences à la réception. Veuillez dès lors faire fonctionner cet appareil à une distance raisonnable de postes de radio et de télévision.

## Maniement

Pour éviter de les endommager, manipulez les commandes et les boutons de cet instrument avec soin.

## Entretien

Lorsque l'instrument se salit, nettoyez-le avec un chiffon propre et sec. Ne vous servez pas d'agents de nettoyage liquides tels que du benzène ou du diluant, voire des produits inflammables.

## Conservez ce manuel

Après avoir lu ce manuel, veuillez le conserver soigneusement pour toute référence ultérieure.

## Evitez toute intrusion d'objets ou de liquide

Ne placez jamais de récipient contenant du liquide près de l'instrument. Si le liquide se renverse ou coule, il risque de provoquer des dommages, un court-circuit ou une électrocution.

Veillez à ne pas laisser tomber des objets métalliques dans le boîtier (trombones, par ex.). Si cela se produit, débranchez l'alimentation de la prise de courant et contactez votre revendeur ou un technicien qualifié pour obtenir de l'aide.

\* Tous les noms de produits et de sociétés sont des marques commerciales ou déposées de leur détenteur respectif.

### Note concernant les dispositions (Seulement EU)



Quand un symbole avec une poubelle barrée d'une croix apparait sur le produit, le mode d'emploi, les piles ou le pack de piles, cela signifie que ce produit, manuel ou piles doit être déposé chez un représentant compétent, et non pas dans une poubelle ou toute autre déchetterie conventionnelle.



Disposer de cette manière, de prévenir les dommages pour la santé humaine et les dommages potentiels pour l'environnement. La bonne méthode d'élimination dépendra des lois et règlements applicables dans votre localité, s'il vous plaît, contactez votre organisme administratif pour plus de détails. Si la pile contient des métaux lourds au-delà du seuil réglementé, un symbole chimique est affiché en dessous du symbole de la poubelle barrée d'une croix sur la pile ou le pack de piles.



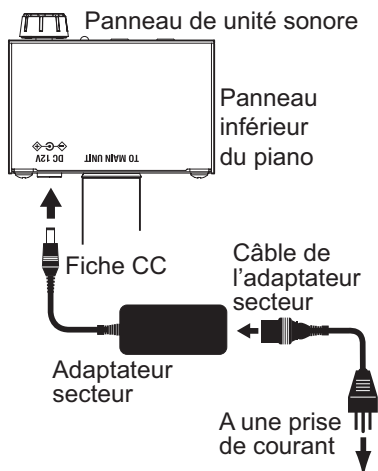
# Avant de commencer à jouer

## Branchement de l'alimentation (Illustration 1)

Pour commencer, le HT-10 est hors tension. Branchez le câble d'alimentation à l'adaptateur secteur. Branchez la fiche de CC à la prise DC12V en face arrière. Branchez ensuite le câble d'alimentation à une prise secteur.

- Utilisez uniquement l'adaptateur secteur fourni. Si vous utilisez un autre adaptateur secteur, cela risque d'endommager l'appareil.
- Veillez à brancher le produit à une prise secteur d'une tension adéquate.

Illustration 1



## Mettez l'appareil sous tension

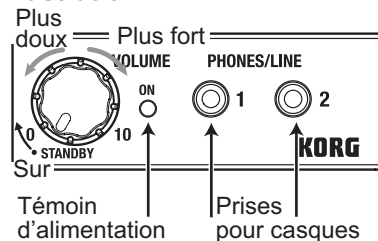
Tournez le bouton VOLUME vers la droite pour mettre l'appareil sous tension. (Illustration 2)  
Témoin d'alimentation s'allumera.

Pour mettre l'appareil hors tension, tournez le bouton VOLUME vers la gauche jusqu'à la position "STANDBY".

Témoin d'alimentation s'éteindra.

Vous entendrez un "clic" quand l'appareil sera mis sous ou hors tension.

Illustration 2



## Fonction de coupure automatique de l'alimentation

Cette fonction coupe automatiquement l'alimentation du HT-10 quand 30 minutes se sont écoulées sans l'enfoncement d'une touche du clavier ou l'utilisation d'une fonction de l'instrument via le clavier.

- Une fois que cette fonction est activée, l'alimentation du HT-10 est automatiquement coupée, cela même si la commande [VOLUME] a été utilisée pour mettre l'instrument sous tension. Pour mettre le HT-10 sous tension, tournez d'abord la commande [VOLUME] à fond à gauche sur la position "STANDBY" pour mettre l'instrument sous tension, puis tournez à nouveau la commande [VOLUME] pour remettre l'instrument sous tension.

## Réglage du volume

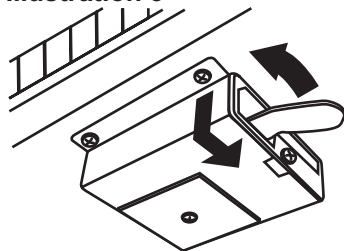
Tournez le bouton VOLUME pour régler le volume. (Illustration 2)

La commande VOLUME règle le volume des haut-parleurs internes et des prises pour casques.

## Coupure du son du piano acoustique

Comme indiqué dans la Illustration 3, tirez le levier de coupure du son situé sur le panneau inférieur du piano vers vous, et abaissez le levier pour le verrouiller. Pour revenir au jeu d'un piano acoustique conventionnel, remettez le levier dans sa position d'origine.

Illustration 3



⚠ Même si le son du piano acoustique est coupé, il sera peut être légèrement audible si vous jouez fortement un accord.

⚠ Ne déplacez pas ce levier pendant que vous jouez.

## Casque

Deux prises de casque étant disponibles, deux personnes peuvent écouter en même temps le son du piano.

Branchez un casque stéréo en insérant un mini-jack stéréo dans une des prises pour casque en face avant de l'instrument. (Illustration 2)

⚠ Quand vous utilisez un casque, vous devez protéger vos oreilles en évitant une écoute prolongée à volume élevé.

## Connexion de périphériques audio

Vous pouvez utiliser les prises PHONES/LINE comme sorties lignes pour brancher des enceintes actives ou d'autres périphériques audio au clavier. Utilisez pour cela des câbles conçus pour ces périphériques et disponibles dans le commerce.

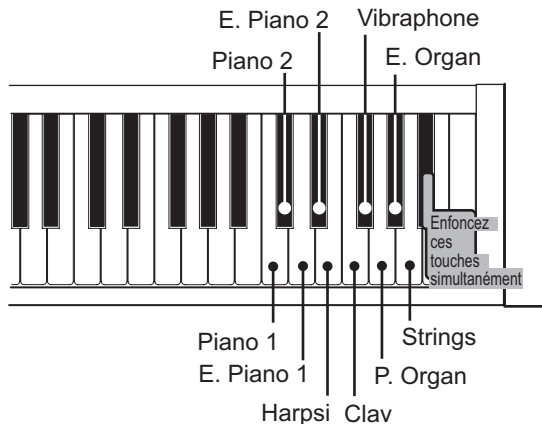
⚠ Avant de brancher des périphériques audio, n'oubliez pas de mettre l'instrument et les périphériques audio hors tension. Faute de quoi, vous risquez d'endommager l'instrument ou les périphériques.

# Sélection d'une sonorité

Le HT-10 propose 10 sons préprogrammés.

En maintenant les touches La<sup>#</sup>7, Si7 et Do8 enfoncées simultanément, appuyez sur une des touches situées entre Do7 et La7. Le son assigné à la touche actionnée est sélectionné.

Quand vous mettez l'instrument sous tension, le son "Piano 1" est sélectionné par défaut.



## Liste des sons

Piano 1 (Do7)	: Piano à queue chaud et riche
Piano 2 (Do <sup>#</sup> 7)	: Piano à queue clair et brillant
E. Piano 1 (Re7)	: Piano électrique authentique et fluide
E. Piano 2 (Re <sup>#</sup> 7)	: Piano électrique moderne et percutant
Harpsi (Mi7)	: Clavecin classique
Clav (Fa7)	: Clavicorde électrique expressif
Vibraphone (Fa <sup>#</sup> 7)	: Vibraphone au son velouté
P. Organ (Sol7)	: Orgue à tuyaux
E. Organ (Sol <sup>#</sup> 7)	: Orgue électronique à registres
Strings (La7)	: Section de cordes

# Utilisation des pédales

Les effets de pédale de soutien et de pédale de sourdine peuvent être appliqués aux sons du HT-10. Vous pouvez utiliser les pédales du piano acoustique pour rendre plus expressif votre jeu.

## Pédale de soutien

Les notes seront soutenues tant que vous maintiendrez la pédale enfoncée, créant ainsi une résonance riche. La distance franchie par la pédale contrôlera la profondeur de l'effet (effet de demi-pédale).

## Pédale de sourdine

Le son sera plus doux tant que vous maintiendrez la pédale enfoncée. La distance franchie par la pédale contrôlera la profondeur de l'effet (effet de demi-pédale).



Un effet de pédale forte progressive peut être appliqué au son Piano 1 ou 2.

# Autres fonctions

Outre la sélection de sons ou de morceaux de démonstration, le HT-10 permet d'accéder à diverses fonctions en maintenant les touches La<sup>#</sup>7, Si7 et Do8 enfoncées et en actionnant une touche à laquelle une fonction est assignée.



Tant que vous maintenez les touches La<sup>#</sup>7, Si7 et Do8 enfoncées, ne jouez pas sur le clavier. Vous risquez d'obtenir un résultat inattendu.

## Sonorité de confirmation

Quand vous enfoncez simultanément les touches La<sup>#</sup>7, Si7 et Do8 à l'extrémité droite du clavier ou quand vous actionnez une touche à laquelle une fonction est assignée, vous entendez une sonorité de confirmation. Vous pouvez couper cette sonorité en procédant de la façon suivante.

En maintenant les touches La<sup>#</sup>7, Si7 et Do8 enfoncées simultanément, appuyez sur la touche La<sup>#</sup>0 pour couper la sonorité de confirmation. Pour réactiver la sonorité de confirmation, faites de même mais appuyez sur la touche Si0 au lieu de La<sup>#</sup>0.

Par défaut (à la mise sous tension), la sonorité de confirmation est activée.

## Effets (réverbération et chorus)

Vous pouvez utiliser un effet de réverbération pour conférer plus de profondeur au son ou un effet chorus pour l'élargir et l'enrichir.

- En maintenant les touches La<sup>#</sup>7, Si7 et Do8 enfoncées simultanément, appuyez sur la touche La5 pour activer l'effet de réverbération. Pour couper l'effet de réverbération, faites de même mais appuyez sur la touche Do<sup>#</sup>5 au lieu de La5.

- En maintenant les touches La<sup>#7</sup>, Si<sup>7</sup> et Do<sup>8</sup> enfoncées simultanément, appuyez sur la touche Si<sup>5</sup> pour activer l'effet de chorus. Pour couper l'effet de chorus, faites de même mais appuyez sur la touche La<sup>#5</sup> au lieu de Si<sup>5</sup>.

Vous pouvez ajouter des effets à chacun des sons. Quand vous mettez l'instrument sous tension, les effets utilisent des réglages optimisés pour chacun des sons préprogrammés.

## Transposition (décalage de hauteur)

Il peut arriver qu'un morceau soit écrit dans une tonalité difficile (impliquant de nombreuses altérations) ou que vous souhaitiez adapter la hauteur à celle d'un autre instrument ou d'un chanteur. Dans ce cas, vous pouvez transposer le clavier (décaler la hauteur des notes) afin de pouvoir jouer comme vous en avez l'habitude mais dans une tonalité différente. C'est ce que nous appelons la fonction de transposition. Vous pouvez transposer la tonalité sur une plage de 11 demi-tons. Après une transposition vers le haut d'un demi-ton, le fait de jouer les notes de la portée supérieure produit les notes de la portée inférieure.

- Pour effectuer la transposition, maintenez les touches La<sup>#7</sup>, Si<sup>7</sup> et Do<sup>8</sup> enfoncées et appuyez sur une touche de la plage Fa<sup>#2</sup>~Si<sup>3</sup> ou Do<sup>#3</sup>~Fa<sup>3</sup>. La transposition est effectuée par rapport à une note de référence. Si vous souhaitez une transposition telle que la touche Do<sup>3</sup> (référence) produise la note La<sup>2</sup> (transposition vers le bas de trois demi-tons), maintenez les touches La<sup>#7</sup>, Si<sup>7</sup> et Do<sup>8</sup> enfoncées et appuyez sur la touche La<sup>2</sup>. Si vous souhaitez une transposition telle que la touche Do<sup>3</sup> (référence) produise la note Ré<sup>#3</sup> (transposition vers le haut de trois demi-tons), maintenez les touches La<sup>#7</sup>, Si<sup>7</sup> et Do<sup>8</sup> enfoncées et appuyez sur la touche Ré<sup>#3</sup>.

Pour annuler la transposition ( $\pm 0$ ), maintenez les touches La<sup>#7</sup>, Si<sup>7</sup> et Do<sup>8</sup> enfoncées et appuyez sur la touche Do<sup>3</sup>.

Par défaut (à la mise sous tension), il n'y a pas de transposition.

## Réglage du diapason

Voici comment effectuer un réglage fin de la hauteur tonale.

Voici comment effectuer un réglage fin de la hauteur tonale. Quand vous jouez en même temps que d'autres instruments, vous pouvez utiliser cette méthode pour éliminer toute différence légère de hauteur tonale entre les instruments.

Vous pouvez modifier le diapason du HT-10 par intervalles de 0,5Hz (Hertz) sur la plage 427,5~452,5Hz en utilisant les touches Mi<sup>5</sup> et Fa<sup>5</sup>.

- En maintenant les touches La<sup>#7</sup>, Si<sup>7</sup> et Do<sup>8</sup> enfoncées (à l'extrémité droite du clavier), appuyez plusieurs fois sur la touche Mi<sup>5</sup> pour diminuer le diapason par pas de 0,5Hz ou sur la touche Fa<sup>5</sup> pour augmenter le diapason par pas de 0,5Hz.
- Pour retrouver le diapason La<sup>4</sup>= 440Hz, maintenez les touches La<sup>#7</sup>, Si<sup>7</sup> et Do<sup>8</sup> enfoncées et appuyez simultanément sur les touches Mi<sup>5</sup> et Fa<sup>5</sup>.

Par défaut (à la mise sous tension), le réglage est "440Hz" (La<sup>4</sup>) sauf si un technicien agréé a modifié ce réglage par défaut lors de l'installation et l'a réglé sur "441", "442", "443", "444" ou "445Hz".

# Écoute des sons de démonstration

Le HT-10 propose 10 morceaux de démonstration exploitant 10 sons préprogrammés. Écoutez les morceaux de démonstration pour découvrir toute la richesse et l'expressivité des sons.

En maintenant les touches La<sup>#</sup>7, Si7 et Do8 enfoncées, appuyez sur une des touches situées entre Do6 et La6. Le morceau de démonstration assigné à la touche actionnée (voyez ci-dessous) démarre.

La lecture des morceaux de démonstration commence à partir du morceau sélectionné et se poursuit par ordre ascendant jusqu'à ce que vous l'arrêtiez.

Pour arrêter la lecture des morceaux de démonstration, appuyez simultanément sur les touches La<sup>#</sup>7, Si7 et Do8.

## Liste des sons de démonstration

1. Piano 1 (Do6)	: Fantaisie-Impromptu Op.66/F.Chopin
2. Piano 2 (Do <sup>#</sup> 6)	: Amazing Grace/unknown (arr. : N.Nishi)
3. E. Piano 1 (Re6)	: Ramble/M.Sakaguchi
4. E. Piano 2 (Re <sup>#</sup> 6)	: KORG Original
5. Harpsi (Mi6)	: Invention No.8/J.S.Bach
6. Clav (Fa6)	: KORG Original
7. Vibraphone (Fa <sup>#</sup> 6)	: KORG Original
8. P. Organ (Sol6)	: Toccata in D moll/J.S.Bach
9. E. Organ (Sol <sup>#</sup> 6)	: KORG Original
10. Strings (La6)	: First Snow/M.Sakaguchi



## L'action de la pédale est insuffisante outrop forte

- La touche peut être mal calibrée. Contactez votre revendeur ou un technicien qualifié pour obtenir de l'aide.
- L'unité de sourdine peut provoquer les problèmes exposés ci-dessus si elle n'est pas régulièrement entretenue et réglée par un installateur certifié. Nous vous conseillons de faire accorder et régler votre piano une fois par an.

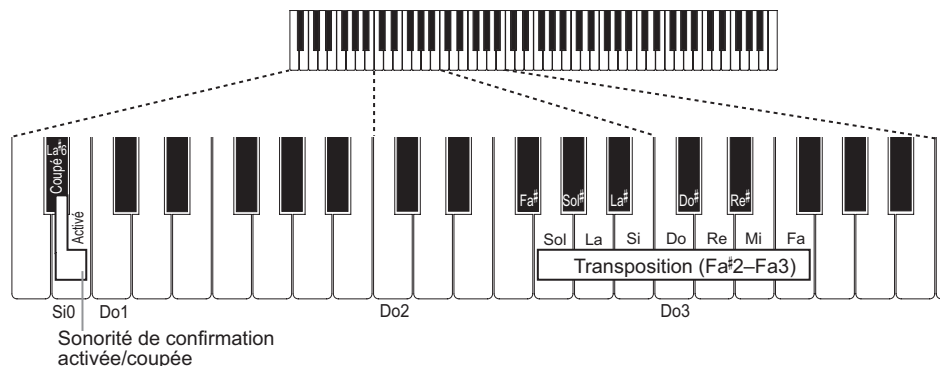
## Le hauteur tonale est différente de celle d'un piano acoustique

- L'unité de sourdine peut provoquer les problèmes exposés ci-dessus si elle n'est pas régulièrement entretenue et réglée par un installateur certifié. Nous vous conseillons de faire accorder et régler votre piano une fois par an.

## Le clavier ne produit aucun son lorsqu'il est utilisé en tant que piano


- Si le levier du dispositif de sourdine ne bouge pas, contactez votre revendeur ou un technicien qualifié pour obtenir de l'aide.

# Fonctions des touches

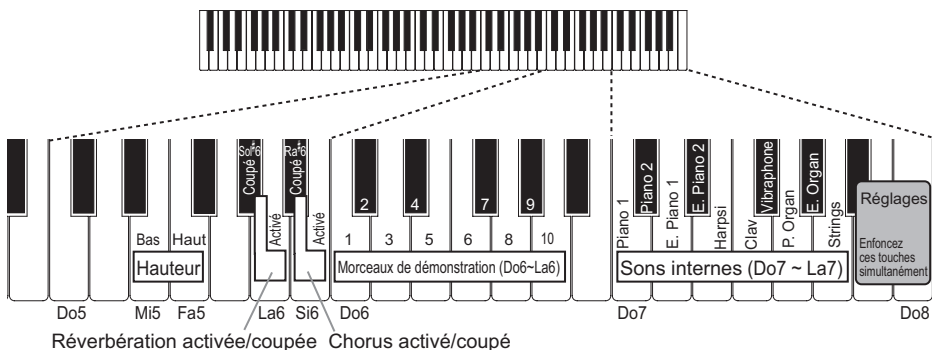




# Spécifications

<b>Sonorités</b>	10 timbres: Piano 1, Piano 2, Electric Piano 1, Electric Piano 2, Harpsichord, Clavichord, Vibraphone, Pipe Organ, Electric Organ, Strings
<b>Générateur de sonorités</b>	Échantillonnage stéréophonique
<b>Polyphonie maximale</b>	120 notes/60 notes (Stereo)
<b>Effects</b>	Réverbération, Chorus
<b>Pédales</b>	Fonction demi-pédale supportée : desoutien, de sourdine
<b>Prises</b>	Casque x 2 (servent aussi de sorties)
<b>Alimentation</b>	DC12V  (adaptateur secteur inclus)
<b>Dimensions</b>	105 (L) × 62 (P) × 31 (H) mm
<b>Weight</b>	130g (Seulement unité sonore)
<b>Accessoires fournis</b>	Adaptateur secteur, casques

\* Les caractéristiques et l'aspect du produit sont susceptibles d'être modifiés sans avis préalable en vue d'une amélioration.



# Vorsichtsmaßnahmen

## Aufstellungsort

Vermeiden Sie das Aufstellen des Geräts an Orten, an denen.

- es direkter Sonneneinstrahlung ausgesetzt ist
- hohe Feuchtigkeit oder Extremtemperaturen auftreten können
- Staub oder Schmutz in großen Mengen vorhanden sind
- das Gerät Erschütterungen ausgesetzt sein kann
- in der Nähe eines Magnetfeldes

## Stromversorgung

Schließen Sie das optionale Netzteil nur an eine geeignete Steckdose an. Verbinden Sie es niemals mit einer Steckdose einer anderen Spannung.

## Störeinflüsse auf andere Elektrogeräte

Das Gerät kann bei in der Nähe aufgestellten Rundfunkempfängern oder Fernsehgeräten Empfangsstörungen hervorrufen. Betreiben Sie solche Geräte nur in einem geeigneten Abstand von diesem Gerät.

## Bedienung

Vermeiden Sie bei der Bedienung von Schaltern und Reglern unangemessenen Kraftaufwand.

## Reinigung

Bei auftretender Verschmutzung können Sie das Gehäuse mit einem trockenen, sauberen Tuch abwischen. Verwenden Sie keinerlei Flüssigreiniger wie beispielsweise Reinigungsbenzin, Verdünnungs- oder Spülmittel. Verwenden Sie niemals brennbare Reiniger.

## Bedienungsanleitung

Bewahren Sie diese Bedienungsanleitung gut auf, falls Sie sie später noch einmal benötigen.

## Flüssigkeiten und Fremdkörper

Stellen Sie niemals Behältnisse mit Flüssigkeiten in der Nähe des Geräts auf. Wenn Flüssigkeit in das Gerät gelangt, können Beschädigung des Geräts, Feuer oder ein elektrischer Schlag die Folge sein. Beachten Sie, dass keinerlei Fremdkörper in das Gerät gelangen. Sollte ein Fremdkörper in das Gerät gelangt sein, so trennen Sie es sofort vom Netz. Kontaktieren Sie einen qualifizierten Techniker oder Fachhändler.

\* Alle Produkt- und Firmennamen sind Warenzeichen oder eingetragene Warenzeichen der betreffenden Eigentümer.

### Hinweis zur Entsorgung (Nur EU)



Wenn Sie das Symbol mit der „durchgekreuzten Mülltonne“ auf Ihrem Produkt, der dazugehörigen Bedienungsanleitung, der Batterie oder dem Batteriefach sehen, müssen Sie das Produkt in der vorgeschriebenen Art und Weise entsorgen. Dies bedeutet, dass dieses Produkt mit elektrischen und elektronischen Komponenten nicht mit dem normalen Hausmüll entsorgt werden darf. Für Produkte dieser Art existiert ein separates, gesetzlich festgelegtes Entsorgungssystem.



Gebrauchte elektrische und elektronische Geräte müssen separat entsorgt werden, um ein umweltgerechtes Recycling sicherzustellen. Diese Produkte müssen bei benannten Sammelstellen abgegeben werden. Die Entsorgung ist für den Endverbraucher kostenfrei! Bitte erkundigen Sie sich bei ihrer zuständigen Behörde, wo sie diese Produkte zur fachgerechten Entsorgung abgeben können. Falls ihr Produkt mit Batterien oder Akkumulatoren ausgerüstet ist, müssen sie diese vor Abgabe des Produktes entfernen und separat entsorgen (siehe oben). Die Abgabe dieses Produktes bei einer zuständigen Stelle hilft ihnen, dass das Produkt umweltgerecht entsorgt wird. Damit leisten sie persönlich einen nicht unerheblichen Beitrag zum Schutz der Umwelt und der menschlichen Gesundheit vor möglichen negativen Effekten durch unsachgemäße Entsorgung von Müll. Batterien oder Akkus, die Schadstoffe enthalten, sind auch mit dem Symbol einer durchgekreuzten Mülltonne gekennzeichnet. Neben dem Mülltonnensymbol befindet sich die chemische Bezeichnung des Schadstoffes.

Cd oder NiCd steht für Cadmium, Pb für Blei und Hg für Quecksilber.

# Bevor Sie mit dem Spielen beginnen

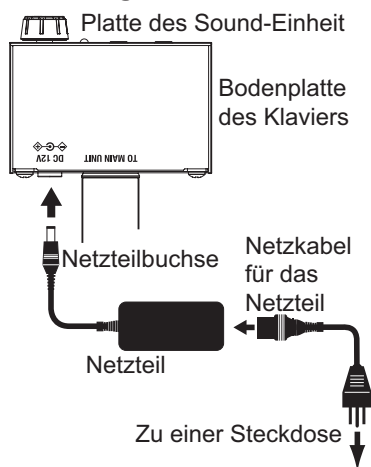
## Anschließen ans Netz

### (Abbildung 1)

Achten Sie darauf, dass das HT-10 ausgeschaltet ist. Verbinden Sie das beiliegende Netzteil mit dem Netzkabel. Verbinden Sie den kleinen Stecker mit der DC12V-Buchse auf der Rückseite. Verbinden Sie das Netzkabel mit einer Steckdose.

- ⚠ Verwenden Sie nur das beiliegende Netzteil. Bei Verwendung eines anderen Netzteils wird das Gerät eventuell beschädigt.
- ⚠ Verbinden Sie das Instrument ausschließlich mit einer Steckdose der geeigneten Netzspannung.

Abbildung 1



## Einschalten des HT-10

Drehen Sie den VOLUME-Knopf nach rechts zum Einschalten.

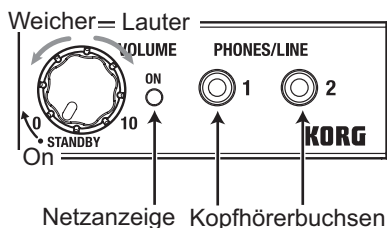
Die Netzanzeige leuchtet auf. (Abbildung 2)

Zum Ausschalten drehen Sie den VOLUME-Knopf nach links bis zur Stellung „STANDBY“.

Die Netzanzeige erlischt.

Beim Ein- und Ausschalten hören Sie einen „Klick“-Ton.

Abbildung 2



## Energiesparfunktion

Diese schaltet das HT-10 automatisch aus, wenn 30 Minuten lang keine Taste der Tastatur gespielt oder keine Funktionseinstellung durch Bedienung des Keyboards vorgenommen wurde.

- ⚠ Das HT-10 schaltet sich auch dann automatisch aus, wenn es zuvor mit dem [VOLUME]-Regler eingeschaltet wurde. Um das HT-10 wieder einzuschalten, müssen Sie es zuerst ausschalten, indem Sie den [VOLUME]-Regler entgegen den Uhrzeigersinn bis zur Position „STANDBY“ drehen. Danach können Sie den [VOLUME]-Regler wieder aufdrehen, um das Gerät einzuschalten.

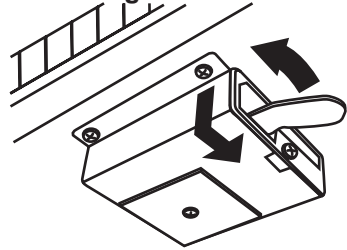
## Einschalten des Geräts

Drehen Sie den VOLUME-Knopf zur Einstellung der Lautstärke. (Abbildung 2)  
Dies steuert die Lautstärke, die von den Kopfhörerbuchsen ausgegeben wird. Drehen Sie den Knopf nach links zum Senken der Lautstärke oder nach rechts zum Steigern der Lautstärke.

## Stummschalten des akustischen Klavierklangs

Wie in Abbildung 3 gezeigt, ziehen Sie den Hebel der Stummschalteinheit an der Unterseite des Klaviers zu Ihnen hin und senken den Hebel zum Arretieren ab. Zum Zurückgehen zum herkömmlichen Spielen des akustischen Klaviers stellen Sie den Hebel in Ausgangsstellung zurück.

Abbildung 3



- ⚠ Auch wenn das Klavier stummgeschaltet ist, kann akustischer Klavierklang erzeugt werden, wenn Sie einen Akkord stark spielen.
- ⚠ Bedienen Sie diesen Hebel nicht während des Spiels.

## Kopfhörerbetrieb

Es gibt zwei Kopfhörerbuchsen, zwei Personen können den Klang des Klaviers genießen.

Schließen Sie einen Stereo-Kopfhörer mit Miniklinke an eine der beiden Kopfhörerbuchsen auf der Vorderseite des Einheit an. (Abbildung 2)

- ⚠ Bei Verwendung von Kopfhörern müssen Sie Ihre Ohren schonen, indem Sie langes Hören bei sehr hoher Lautstärke vermeiden.

## Anschließen anderer Audiogeräte

Die PHONES/LINE-Buchsen lassen sich auch als Audio-Ausgänge für Aktivboxen oder andere Audiogeräte nutzen. Für eine solche Verbindung benötigen Sie handelsübliche Kabel mit den für Ihr Gerät geeigneten Steckern.

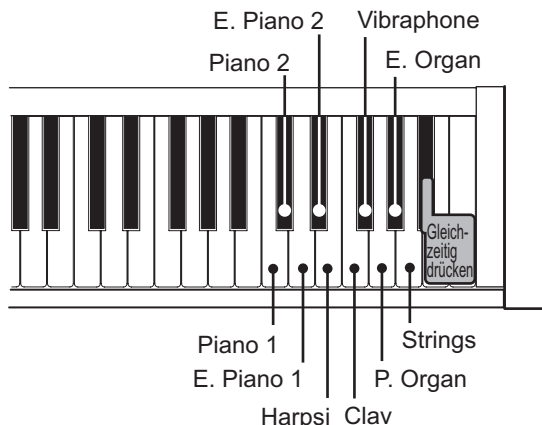
- ⚠ Vor dem Herstellen von Audioverbindungen müssen Sie das Instrument und die externen Audiogeräte ausschalten. Andernfalls könnten das Instrument und die übrigen Geräte beschädigt werden.

# Spiele unterschiedlicher Klänge

Das HT-10 enthält 10 vorprogrammierte Klangfarben.

Halten Sie die Tasten A<sup>#</sup>7, H7 und C8 ganz rechts gedrückt, während Sie eine Taste im Bereich C7–A7 betätigen. Die der gedrückten Klangfarbe zugeordnete Taste wird gewählt.

Unmittelbar nach dem Einschalten wählt das Instrument jeweils den „Piano 1“-Klang.



## Liste der Klänge

Piano 1 (C7)	: Wunderschöner Flügelklang
Piano 2 (C <sup>#</sup> 7)	: Heller und klarer Flügelklang
E. Piano 1 (D7)	: Runder, authentischer E-Pianoklang
E. Piano 2 (D <sup>#</sup> 7)	: Modernes, sehr perkussives E-Piano
Harpsi (E7)	: Klassisches Cembalo
Clav (F7)	: Expressives elektrisches Cembalo
Vibraphone (F <sup>#</sup> 7)	: Runder Vibraphonklang
P. Organ (G7)	: Pfeifenorgel
E. Organ (G <sup>#</sup> 7)	: Elektrische Zugriegelorgel
Strings (A7)	: Klang einer Streichersektion

# Verwenden der Pedale

Haltepedal und Softpedal können an die Sounds des HT-10 angelegt werden. Sie können die Pedale des akustischen Klaviers verwenden, um Ihrem Spiel mehr Ausdruck zu geben.

## Haltepedal

Die Noten werden gehalten, während Sie das Pedal halten, was eine hohe Resonanz erzeugt. Die Tiefe des Pedaldrucks steuert den Grad des Haltens der angelegt wird (Halbpedaleffekt).


## Softpedal

Der Sound wird weicher und milder, während Sie das Pedal gedrückt halten. Die Tiefe des Pedaldrucks steuert den Grad der Dämpfung, der angelegt wird (Halbpedaleffekt).

 Mit dem „Piano 1“- oder „Piano 2“-Klang können Sie das Dämpferpedal stufenlos verwenden.

# Verwendung der übrigen Funktionen

Das HT-10 erlaubt nicht nur die Auswahl anderer Klänge und das Abspielen der Demo-Songs, indem man die Tasten A<sup>#</sup>7, H7 und C8 gedrückt hält, während man eine andere Taste drückt. Es stehen noch weitere Funktionen zur Verfügung.

 Spielen Sie keine Noten, während Sie die Tasten A<sup>#</sup>7, H7 und C8 gedrückt halten, weil sonst eventuell etwas Unvorhergesehenes passiert.

## Über den Bestätigungston

Wenn Sie die Tasten A<sup>#</sup>7, H7 und C8 ganz rechts gedrückt halten und die Taste der gewünschten Funktion betätigen, erklingt ein kurzer Bestätigungston. Diese Bestätigung kann man folgendermaßen ausschalten.

Halten Sie die Tasten A<sup>#</sup>7, H7 und C8 (H0) gedrückt, während Sie die Taste A<sup>#</sup>0 betätigen, um den Bestätigungston auszuschalten. Um den Bestätigungston auszuschalten, müssen Sie diesen Vorgang wiederholen, aber die Taste H0 (statt A<sup>#</sup>0) betätigen.

Unmittelbar nach dem Einschalten ertönt der Bestätigungston standardmäßig.

## Effekte (Hall/Reverb und Chorus)

Mit dem Hall-Effekt können Sie die gewünschte Akustik simulieren. Mit dem Chorus-Effekt können Sie den Klang breiter machen.

- Halten Sie die Tasten A<sup>#</sup>7, H7 und C8 gedrückt, während Sie die Taste A5 betätigen, um den Hall-Effekt zu aktivieren. Um den Hall-Effekt auszuschalten, müssen Sie diesen Vorgang wiederholen, aber die Taste C<sup>#</sup>5 (statt 5) betätigen.

- Halten Sie die Tasten A#7, H7 und C8 gedrückt, während Sie das H5 betätigen, um den Chorus-Effekt zu aktivieren. Um den Chorus-Effekt auszuschalten, müssen Sie diesen Vorgang wiederholen, aber die Taste A#5 (statt 5) betätigen.

Alle internen Klangfarben können mit Effekt versehen werden. Nach dem Einschalten des Instruments verwendet jede Klangfarbe die am besten geeigneten Effekteinstellungen.

## Transposition (Spielen in einer anderen Tonart)

Bestimmte Stücke verwenden eine schwierige Tonart (mit vielen schwarzen Tasten). Und bestimmte Sänger bestehen auf eine ganz bestimmte Tonart. Statt dann Ihren Fingersatz zu ändern, können Sie die Tastatur „verschieben“, um weiterhin in der vertrauten Tonart zu spielen und sich nicht um die schwarzen Tasten kümmern zu müssen. Das nennen wir die „Transpositionsfunktion“. Die Tonhöhe kann um 11 Halbtöne versetzt werden. Beispiel: Wenn Sie die Tastatur einen Halbton höher transponieren, können Sie die oben gezeigten Noten spielen, während die darunter gezeigten Noten ausgegeben werden.

- Zum Einstellen des gewünschten Transpositionsintervalls müssen Sie die Tasten A#7, H7 und C8 gedrückt halten, während Sie eine Taste im Bereich F#2–B3 oder C#3–F3 betätigen. Die Note der gedrückten Taste gibt die neue Tonart vor. Beispiel: Wenn bei Drücken der Taste C3 die Note „A2“ (drei Halbtöne tiefer) erklingen soll, müssen Sie die Tasten A#7, H7 und C8 gedrückt halten, während Sie das A2 betätigen. Wenn bei Drücken der Taste C3 die Note „D#3“ (drei Halbtöne höher) erklingen soll, müssen Sie die Tasten A#7, H7 und C8 gedrückt halten, während Sie das D#3 betätigen.

Um wieder die normalen Notentöne zu verwenden ( $\pm 0$ ), müssen Sie die Tasten A#7, H7 und C8 gedrückt halten, während Sie das C3 betätigen.

Unmittelbar nach dem Einschalten wird die Normaltonhöhe (keine Transposition) gewählt.

## Ändern der Stimmung

So nehmen Sie Feineinstellungen an der Tonlage vor.

Wenn Sie zusammen mit anderen Instrumenten spielen, können Sie diese Methode verwenden, um leichte Unterschiede in der Tonlage zwischen Instrumenten zu korrigieren. Mit den Tasten E5 und F5 kann die Gesamtstimmung des HT-10 im Bereich 427,5–452,5Hz (Hertz) in 0,5Hz-Schritten geändert werden.

- Halten Sie die Tasten A#7, H7 und C8 (ganz rechts) gedrückt, während Sie die Tonhöhe mit der Taste E5 bei jedem Drücken um jeweils 0,5Hz absenken bzw. mit der Taste F5 um jeweils 0,5Hz anheben.
- Um die Kammertonfrequenz wieder auf 440Hz zu stellen, müssen Sie die Tasten A#7, H7 und C8 gedrückt halten, während Sie das E5 und F5 gleichzeitig betätigen.

Unmittelbar nach dem Einschalten wird die Stimmung auf „440Hz (A4)“ gestellt, es sei denn, Sie haben einen anerkannten Wartungstechniker während der Installation gebeten, diesen Wert auf „441“, „442“, „443“, „444“ oder „445Hz“ zu stellen.

# Abspielen der Demo-Songs

Das HT-10 enthält 10 Demo-Songs, welche die 10 vorhandenen Klangfarben vorführen.

Die Demo-Songs vermitteln einen guten Eindruck der Klangfülle. Halten Sie die Tasten A<sup>#</sup>7, H7 und C8 ganz rechts gedrückt, während Sie eine Taste im Bereich C6–A6 betätigen. Der Demo-Song der gedrückten Taste (siehe unten) wird abgespielt.

Die Wiedergabe beginnt beim gewählten Stück und wird mit den nachfolgenden Stücken fortgesetzt und in einer Schleife abgespielt, bis Sie sie wieder anhalten.

Um die Demowiedergabe anzuhalten, müssen Sie die Tasten A<sup>#</sup>7, H7 und C8 gleichzeitig drücken.

## Liste der Klänge-Demosongs

1. Piano 1 (C6)	: Fantasie-Impromptu Op.66/F.Chopin
2. Piano 2 (C <sup>#</sup> 6)	: Amazing Grace/unknown (arr. : N.Nishi)
3. E. Piano 1 (D6)	: Ramble/M.Sakaguchi
4. E. Piano 2 (D <sup>#</sup> 6)	: KORG Original
5. Harpsi (E6)	: Invention No.8/J.S.Bach
6. Clav (F6)	: KORG Original
7. Vibraphone (F <sup>#</sup> 6)	: KORG Original
8. P. Organ (G6)	: Toccata in D moll/J.S.Bach
9. E. Organ (G <sup>#</sup> 6)	: KORG Original
10. Strings (A6)	: First Snow/M.Sakaguchi



# Störungssuche

## Gerät schaltet nicht ein

- Ist der Gleichstromstecker des Netzteils an der Buchse DC12V des HT-10 angeschlossen?
- Ist das Netzkabel des Netzteils an einer Netzsteckdose mit der richtigen Netzspannung angeschlossen?
- Ist das Gerät eingeschaltet?
- Wenn das Gerät immer noch nicht einschaltet, ziehen Sie das Netzteilkabel von der Steckdose ab und wenden Sie sich an den Kundendienst.

## Kein Ton

- Ist möglicherweise der VOLUME-Knopf des HT-10 ganz nach links gedreht (bis kurz vor der „STANDBY“-Stellung)?

## Noten sind unterbrochen

- Die Klänge des HT-10 beruhen auf Samples (Digital-Aufnahmen von Natur- und anderen Klängen), die nach der Aufnahme noch bearbeitet wurden. Bestimmte Klänge beruhen auf einem Sample, das beim Drücken der Tasten angesteuert wird. Andere Klänge steuern dagegen zwei Samples an. Die meisten Klangfarben des HT-10 beruhen auf jeweils zwei Samples. Bei Auswahl eines solchen Klangs (und unabhängig davon, ob das Dämpferpedal gedrückt wird), beträgt die Polyphonie noch 60 Noten. Bei zwei Klavierklängen beträgt die Polyphonie dagegen 120 Noten. Sobald die Polyphonie überschritten wird, fallen die zuerst gespielten Noten weg.

## Die Tonlage oder der Ton des Klaviers klingt in manchen Tonalregionen falsch

- Die Piano-Sounds des HT-10 replizieren den Sound eines echten Klaviers so treu wie möglich. Das bedeutet, dass in manchen Regionen der Tastatur das Gefühl entstehen kann, dass die Obertöne stärker erscheinen oder der Ton oder die Tonlage falsch wirkt. Dies ist keine Fehlfunktion.

## Eine bestimmte Taste spielt keine Note bzw. spielt die betreffende Note viel zu leise/laut

- Vielleicht ist die Taste nicht ordnungsgemäß kalibriert. Bitte wenden Sie sich an einen anerkannten Wartungstechniker oder an Ihren Korg-Händler.
- Die Schalldämpfungseinheit kann die obigen Probleme hervorrufen, wenn sie nicht regelmäßig von einem qualifizierten Installationstechniker gewartet und justiert wird. Wir empfehlen, das Klavier einmal im Jahr stimmen und einstellen zu lassen.

## Die Pedalbetätigung ist unzureichend oder zu stark

- Vielleicht ist die Taste nicht ordnungsgemäß kalibriert. Bitte wenden Sie sich an einen anerkannten Wartungstechniker oder Fachhändler.
- Die Schalldämpfungseinheit kann die obigen Probleme hervorrufen, wenn sie nicht regelmäßig von einem qualifizierten Installationstechniker gewartet und justiert wird. Wir empfehlen, das Klavier einmal im Jahr stimmen und einstellen zu lassen.

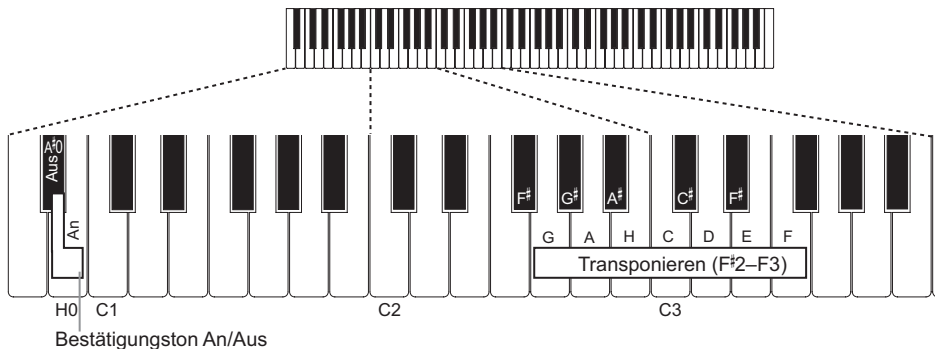
## Die Tonlage ist anders als beim akustischen Klavier

- Die Schalldämpfungseinheit kann die obigen Probleme hervorrufen, wenn sie nicht regelmäßig von einem qualifizierten Installationstechniker gewartet und justiert wird. Wir empfehlen, das Klavier einmal im Jahr stimmen und einstellen zu lassen.

## Das Keyboard erzeugt keinen Ton, wenn es als Piano gespielt wird

- Wenn sich der Dämpfungshebel nicht einstellen lässt, wenden Sie sich bitte an eine anerkannte Kundendienststelle oder Fachhändler.

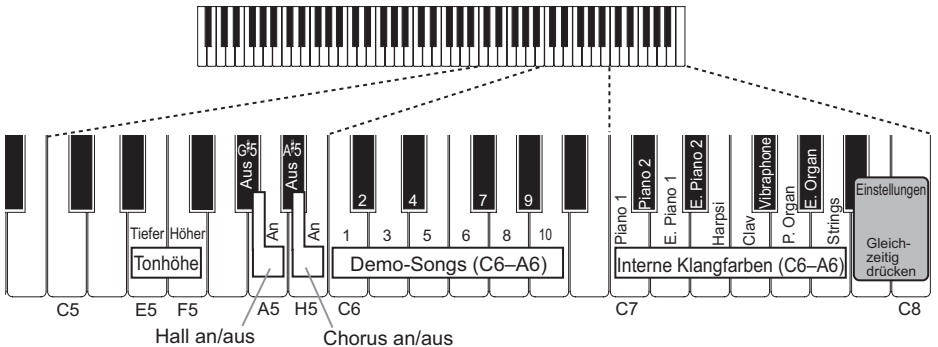
# Tastenfunktionen



# Technische Daten

<b>Klänge</b>	10 Klangfarben: Piano 1, Piano 2, Electric Piano 1, Electric Piano 2, Harpsichord, Clavichord, Vibraphone, Pipe Organ, Electric Organ, Strings
<b>Soundgenerator</b>	Stereosampling-Soundgenerator
<b>Maximale Polyphonie</b>	120 Noten/60 Noten (Stereo)
<b>Effekte</b>	Reverb, Chorus
<b>Pedale</b>	Halbpedaldruck unterstützt: Haltpedal, Softpedal
<b>Anschlüsse</b>	Kopfhörer x 2 (fungieren auch als Audio-Ausgänge)
<b>Stromversorgung</b>	DC12V  (Netzteil mitgeliefert)
<b>Abmessungen</b>	105 (B) × 62 (T) × 31 (H) mm
<b>Gewicht</b>	130g (nur Sound-Einheit)
<b>Lieferumfang</b>	Netzteil, Kopfhörer

\* Änderungen der technischen Daten und des Designs ohne vorherige Ankündigung vorbehalten.



### IMPORTANT NOTICE TO CONSUMERS

This product has been manufactured according to strict specifications and voltage requirements that are applicable in the country in which it is intended that this product should be used. If you have purchased this product via the internet, through mail order, and/or via a telephone sale, you must verify that this product is intended to be used in the country in which you reside.

WARNING: Use of this product in any country other than that for which it is intended could be dangerous and could invalidate the manufacturer's or distributor's warranty.

Please also retain your receipt as proof of purchase otherwise your product may be disqualified from the manufacturer's or distributor's warranty.

### REMARQUE IMPORTANTE POUR LES CLIENTS

Ce produit a été fabriqué suivant des spécifications sévères et des besoins en tension applicables dans le pays où ce produit doit être utilisé. Si vous avez acheté ce produit via l'internet, par vente par correspondance ou/et vente par téléphone, vous devez vérifier que ce produit est bien utilisable dans le pays où vous résidez.

ATTENTION: L'utilisation de ce produit dans un pays autre que celui pour lequel il a été conçu peut être dangereuse et annulera la garantie du fabricant ou du distributeur. Conservez bien votre récépissé qui est la preuve de votre achat, faute de quoi votre produit ne risque de ne plus être couvert par la garantie du fabricant ou du distributeur.

### WICHTIGER HINWEIS FÜR KUNDEN

Dieses Produkt wurde unter strenger Beachtung von Spezifikationen und Spannungsanforderungen hergestellt, die im Bestimmungsland gelten. Wenn Sie dieses Produkt über das Internet, per Postversand und/oder mit telefonischer Bestellung gekauft haben, müssen Sie bestätigen, dass dieses Produkt für Ihr Wohngebiet ausgelegt ist.

WARNUNG: Verwendung dieses Produkts in einem anderen Land als dem, für das es bestimmt ist, verwendet wird, kann gefährlich sein und die Garantie des Herstellers oder Importeurs hinfällig lassen werden. Bitte bewahren Sie diese Quittung als Kaufbeleg auf, da andernfalls das Produkt von der Garantie des Herstellers oder Importeurs ausgeschlossen werden kann.

# KORG INC.

4015-2 Yanokuchi, Inagi-City, Tokyo 206-0812 JAPAN

© 2009 KORG INC.